

介護関係職員医療連携支援事業実施報告書

1 基本事項

代表法人名	株式会社 北勝館
事業所名	北勝館ヘルパーステーション
事業所の所在地	〒080-0111 河東郡音更町木野大通東 17 丁目 2 番地 4
サービス種類	訪問介護
事業所番号	0174701516

2 研修内容

※複数回開催した場合は適宜、表又は行を追加してください。

研修テーマ（実施要綱（ア）～（ク）から選択。その他の場合は具体的な内容を記載。）
（ア）高齢者の身体的特徴と疾患の理解
開催日時
令和 5 年 7 月 31 日
開催場所
株式会社とかちの杜 サ高住音更北勝館 1F フロア
参加者の人数、職種及び参加事業所種別
研修参加者 30 名 ・北勝館ヘルパーステーション 9 名 ・北勝館デイサービスセンター スタッフ 10 名、看護師 4 名 計 14 名 ・北勝館ケアプランセンター 2 名 ・(株)とかちの杜（有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅） 相談員 2 名、事務員 2 名 計 4 名 ・その他 代表 1 名
研修内容
1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。） （1）講義「高齢者の疾患特性と緊急時の対応」 （2）グループワーク「バイタルサインの測定、緊急時の対応」
2 講師・指導者の所属職氏名 講師 養生会 苫小牧日翔病院 医師 圓谷 敏彦 看護師 圓谷 和子

3 研修実施に係る報告内容

研修実施の背景、課題
入居者の疾患が様々な物があり対応に自身がなく、躊躇してしまう傾向があった。 また新人スタッフは、病状の変化の気付きに遅れてしまう傾向もみられた為、早期の発見や、病状悪化に発展してしまう危険性も見られた。
研修のテーマ及びねらい
疾患の特性を理解し、個々の疾患がどのように相互に影響していくのか、またそのような場合の症状の変化や全身状態の特徴を知る事で、早期に気付き、医療へと繋いでいけるようにする事がねらい。また、緊急時に危険に気付き対応する事ができる力が付くように。
研修成果等
1 実施前の課題解決の有無等 講義、実習にて、利用者の疾患や病気での危険性等に関心を持つようになった。 利用者の病気での変化に慎重に注意しなければならないと気付きができ、緊急対応時、不安な際の相談先など明確になるように対応。
2 実施による成果及び効果 利用者の疾患の特徴や日々のバイタル測定について、手順を踏み対応できている。 研修後のバイタル測定も手順を踏み対応している。
3 今後の課題 透析者、がん患者でターミナルを迎えている方の対応など、事例に合わせた研修が必要。

4 次年度以降、より医療連携を推進するために事業所で考えている取り組み

<ul style="list-style-type: none">・精神的ケアに関する研修・高齢者虐待防止に関する研修・認知症ケアに関する研修 上記を検討中

5 研修を企画するに当たって苦労していること、工夫していること

<ul style="list-style-type: none">・講師へ研修依頼、講義時間、日程・スタッフの理解、価値観が相違し受け取り方を説明する際苦労するが、理解して頂くまで説明する。

6 研修実施に係るまとめ、感想等

社内だけで行う研修とは違い、外部の講師が来ることで、職員の研修に対する受講の意識が変わり、直接医師や看護師へ質問、説明が聞ける環境が好評だった。普段業務で行っている、バイタル計測に関しても、改めて手順を踏み計測しなければならないという意識も芽生え、新人スタッフに対しても不安な部分もまだあるが、直接医療関係者へ質問できたことが自身へとつながっている。 今後も継続して研修を検討している。
--

介護関係職員医療連携支援事業実施報告書

1 基本事項

代表法人名	社会福祉法人中標津朋友会
事業所名	特別養護老人ホーム中標津りんどう園
事業所の所在地	〒086-1160 標津郡中標津町りんどう町5番地8
サービス種類	介護老人福祉施設
事業所番号	0174200063

2 研修内容

※複数回開催した場合は適宜、表又は行を追加してください。

【第一回目】

研修テーマ（実施要綱（ア）～（ク）から選択。その他の場合は具体的な内容を記載。）
（ウ）認知症の理解
開催日時
令和5年11月17日（金） 18時45分～20時45分
開催場所
トーヨーグランドホテル グランドホール（標津郡中標津町東20条北1丁目）
参加者の人数、職種及び参加事業所種別
会場参加 69名、オンライン参加 他法人 8事業所
研修内容
1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。） テーマ：『行動・心理症状への対応』
2 講師・指導者の所属職氏名 講師：社会福祉法人幸清会 理事長 大久保 幸積

3 研修実施に係る報告内容

研修実施の背景、課題
認知症を正しく理解し、認知症の方への適切な対応方法が求められるなか、専門的な認知症ケアの実践が欠かせない課題であると認識しています。
研修のテーマ及びねらい
認知症の人の視点を重視し、利用者主体の介護を遂行する。その上で基本的な知識・技術とそれを実践する際の考え方を身につけるとともに、BPSDへの対応を学び、チームアプローチに参画する一員としてサービス提供を行うことができるようにする。

研修成果等

1 実施前の課題解決の有無等

認知症の方を知る機会、そして BPSD（行動心理症状）による介護拒否などの対応に苦慮していたが、当研修を通じて解決に向けた道筋ができた。

2 実施による成果及び効果

講師は「日本認知症ケア学会副理事長」他「認定認知症介護指導者」など多くの公職を務められてますが、介護現場で起きる場面を想定しながら、資料を通じて解りやすく解説して頂き、多くの参加者が「BPSD への対応」に対する理解に繋がりました。

3 今後の課題

認知症利用者を理解し、その人らしさを支援するケアを提供することを目指し、チームとしてのアプローチの定着及び、認知症ケアを醸成させていきたい。

【第二回目】

研修テーマ（実施要綱（ア）～（ク）から選択。その他の場合は具体的な内容を記載。）

（その他）介護・医療職が効果的なコミュニケーションを取って連携強化していく方法

開催日時

令和6年1月12日（金） 18時30分～20時30分

開催場所

デイサービスセンター中標津りんどう園

参加者の人数、職種及び参加事業所種別

会場参加 29名、オンライン参加 他法人 計3事業所

研修内容

1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。）

テーマ：『介護・医療連携のカギ』～効果的なコミュニケーションの戦略と実践～

2 講師・指導者の所属職氏名

講師：NPO 法人 ちとせの介護医療連携の会 事務局長 木下 浩志氏

①多職種連携（グループワーク含む）

②人材の確保（同 上）

③動機付け（同 上）

④人間関係（同 上）

⑤キャリア形成（同 上）

研修実施の背景、課題

地域包括ケアシステムの深化・推進に向け、また医療ニーズの高い利用者が増えている昨今、「医療と介護の連携」を加速させていく必要があります。

しかしながらそれぞれの教育課程が違うため、意見の対立などが生じ、チームとしての適切な利用者サービスに繋がらないことが、多くの事業所にもあることと思います。

研修のテーマ及びねらい

専門職としてお互いの立場を理解していくこと。そして職場の良好な人間関係を構築していき、良質な介護サービスの提供に繋げる目的で、キャリアコンサルタントの有資格者である講師を迎え学習する。

研修成果等

1 実施前の課題解決の有無等

多職種連携を阻害する環境要件をしっかりと把握すること。そして自分が満ち足りてはじめて他人への関心が起こることが重要であると講話から解説されたが、意識的な遂行ができていなかった。

2 実施による成果及び効果

キャリアコンサルタント資格者の研修が新鮮だったのか、参加者の生き生きとした光景が印象的であった。他職種間、上司・部下の関係性の強化に繋がる研修でありました。

3 今後の課題

医療・介護職が連携していくうえで、お互いの立場・役割等をよく理解し、利用者の「その人らしさ」を支援するケアの提供が実現できることを目指し、チームアプローチとしての連携を更に強化していきたい。

4 次年度以降、より医療連携を推進するために事業所で考えている取り組み

令和6年度から介護に直接携わる職員のうち、医療・福祉関係の資格を有さない者について「認知症介護基礎研修」を受講させることが義務付けされます。認知症についての理解の下、認知症の方（本人）主体の介護を行い、認知症の方の尊厳の保障を実現していくため、更なる認知症ケアの学習について進めていきたい。

そのためには介護職・医療職との連携が欠かすことが出来ないので、各ネットワークを通して、多様な研修企画を職員間で協議し、実施して参りたい。

また、第二回目の研修会で講和して頂いた研修内容も、医療・介護職ともに理解が深まったので、次年度も開催検討することとしたい。

5 研修を企画するに当たって苦労していること、工夫していること

自法人の事業所だけではなく、根室管内全域の介護事業所に参加勧奨しましたが、多くの事業所は人手不足等の理由から時間的な余裕がなく、会場参加・オンライン参加の人数が想定していたものより少なかったと感じました。

オンライン研修の特性をいかし、研修日程も複数回にわたるなど、多くの事業所が参加できる仕組みづくりをこれからも構築していきたい。

また、どの事業所も慢性的な人手不足の状態にあり、未経験者であっても採用せざるを得ない状況にもあることと思います。知識も技術も経験も伴わない状況にあっても介護現場ではより質の高いサービス提供が求められています。

自法人だけではなく、当管内全域の事業所が連携して一緒に学習していき、共通の標準的なケア方法を見いだせるようにしていきたい。

6 研修実施に係るまとめ、感想等

講師（第一回目の研修）から、まず認知症の症状について要点を教えていただき、BPSD（行動心理症状）への対応については「職員のかかわり方で改善される」と指南いただきました。

介護拒否・徘徊など、職員が対応に苦慮することも、関わり方で大きく変わることの解説がありました。

コロナ禍が開け、認定認知症介護指導者である講師から、多くの職員が参集方式で学習することができ、大変有意義な研修となりました。

介護関係職員医療連携支援事業実施報告書

1 基本事項

代表法人名	社会福祉法人元気の里とから
事業所名	多機能ホーム清流の里
事業所の所在地	〒080-0871
サービス種類	認知症対応型共同生活介護、小規模多機能型居宅介護
事業所番号	0194600359

2 研修内容

※複数回開催した場合は適宜、表又は行を追加してください。

研修テーマ（実施要綱（ア）～（ク）から選択。その他の場合は具体的な内容を記載。）
〔1回目〕 （ア）高齢者の身体的特徴と疾患の理解 （イ）高齢者の運動機能の向上のためのケア 〔2回目〕 （ウ）認知症の理解 （キ）介護従事者ができる看取りケア
開催日時
〔1回目〕 令和5年10月23日（月）、24日（火） 演習 16:00～17:30 講義 19:00～20:30 ※両日とも同時刻 〔2回目〕 令和5年12月15日（金） 18:00～21:00
開催場所
〔1回目〕 音更町木野コミュニティセンター 大集会室 〔2回目〕 とからプラザ 401 講習室
参加者の人数、職種及び参加事業所種別
〔1回目〕 23日：介護職員23名・介護支援専門員2名・看護職員2名・事務その他2名 24日：介護職員20名・介護支援専門員4名・看護職員1名・事務その他6名

〔2回目〕

介護職員 19名・介護支援専門員 7名・看護職員 1名・事務その他 5名

研修内容

〔1回目〕

1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。）

演習：各事業所での直接職員の相談や指導、実技を行った。

23日グループホーム元気の里さらべつ

多機能ホーム清流の里

24日地域密着型介護老人福祉施設奏

グループホームひびき野

グループホーム彩

講義：23日 『基本的介護技術研修（起居動作編）』

24日 『基本的介護技術研修（立ち上がり・移乗・歩行介助）』

2 講師・指導者の所属職氏名

株式会社 大起エンゼルヘルプ

（東京都荒川区東尾久1-1-4 5階）

理学療法士 田中 義行 氏

〔2回目〕

1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。）

演習：グループディスカッション

講義：認知症ケア・看取りケアについて

2 講師・指導者の所属職氏名

社会福祉法人 福岡ひかり福祉会

宅老所よりあい 第2宅老所よりあい 特別養護老人ホームよりあいの森

（〒814-0104 福岡県福岡市城南区別府7-9-22）

代表 村瀬 孝生 氏

3 研修実施に係る報告内容

研修実施の背景、課題

高齢者も個々に身体的特徴や疾患・拘縮などが違い、その方に合った援助方法を学ぶ必要があったため。

認知症には様々な症状があることから都度、対応していく必要がある。
また看取りケアを行っている為、より専門的な知識習得が求められるため

研修のテーマ及びねらい

利用者様一人一人に合った移乗の仕方・ポジショニングを学ぶ
看取りケアや認知症ケアに取り組んでいる為、専門的な知識の習得

研修成果等

1 実施前の課題解決の有無等

利用者様一人一人に合った介助・援助方法を学ぶこと、
認知症ケア、看取りケアの専門的な知識の習得、共に目的を果たすことができた。

2 実施による成果及び効果

〔1回目〕

演習では、職員の相談に基づき実際に利用者様へ許可を取り、利用者様の介助の方法を
実践していただいた。直接、目で見て体験することで利用者様に合った介助方法を身につ
けることができた。講義では、講師自身の経験談や専門的な知識で事例を元に講話してい
ただいた。多種多様な介助についてスキルアップに繋がった。

〔2回目〕

講師が、これまでの経験を元に認知症の方への関わり方、認知症そのものへの考え方を
講話していただきました。実際に介護現場での事例を元にグループディスカッションを
交えての3時間でしたが、職員一人一人が利用者様との向き合い方を学ぶことができた時
間であった。自分たちが、どれくらい認知症という概念に縛られているのか認識すること
ができ、看取りについても『お年寄りと「いまここ」をつかみ取ることが大事』というこ
とが気づきとして今後の業務への意識向上・活力となった。

3 今後の課題

研修で学んだことを活かす取り組み、実践が必要となる。
また、利用者様へより良いケア・サービスを提供するには今後も継続して専門的な知識・
技術の習得が課題になる。

4 次年度以降、より医療連携を推進するために事業所で考えている取り組み

当日、参加が難しい職員に対して今後も録画をして受講できる取り組みを行っていきたい。
また、研修内容についても、より実態に合ったものを職員の意見を取り入れて精査し取り組
んでいく。

5 研修を企画するに当たって苦労していること、工夫していること

(苦労) 研修内容にあった講師を依頼するための日程調整・予算

(工夫) 研修を録画し、職員向け YouTube で限定公開をしている。

参加できなかった職員や振り返りとして視聴可能な体制を整えている

6 研修実施に係るまとめ、感想等

研修実施に伴い、現場の意気が上がる取り組みができた。

今後もニーズに合った取り組みが必要となってくる。そのためには、人材確保、人材育成が急務となる。当法人では看取りを行うことが増えてきている為、看取りケアにおける課題として専門知識を持った人材確保やケアの質の向上が必要となる。今後も補助事業を活用させていただき、より良いケアを提供できるよう取り組んでいきたいと考えております。

介護関係職員医療連携支援事業実施報告書

1 基本事項

代表法人名	社会福祉法人 和寒町社会福祉協議会
事業所名	和寒町特別養護老人ホーム芳生苑
事業所の所在地	〒098-0111 上川郡和寒町字三笠 6 番地
サービス種類	介護老人福祉施設
事業所番号	0 1 7 3 2 0 0 1 8 9

2 研修内容

※複数回開催した場合は適宜、表又は行を追加してください。

研修テーマ（実施要綱（ア）～（ケ）から選択。（ケ）の場合は具体的な内容を記載。）			
（イ）高齢者の運動機能の向上のためのケア			
開催日時			
第1回	令和5年 7月31日（月）	13:00	～ 16:30
第2回	令和5年 8月29日（火）	13:00	～ 16:30
第3回	令和5年10月24日（火）	13:00	～ 16:30
第4回	令和6年 1月31日（水）	13:00	～ 16:30
開催場所			
和寒町特別養護老人ホーム芳生苑			
参加者の人数、職種及び参加事業所種別			
【第1回目】合計 44 名 介護職員 29 名、看護職員 3 名、生活相談員 4 名、介護支援専門員 1 名、管理栄養士 1 名、栄養士 1 名、事務員他 5 名			
【第2回目】合計 41 名 介護職員 28 名、看護職員 3 名、生活相談員 3 名、介護支援専門員 1 名、栄養士 1 名、事務員他 5 名			
【第3回目】合計 44 名 介護職員 29 名、看護職員 3 名、生活相談員 4 名、介護支援専門員 1 名、管理栄養士 1 名、栄養士 1 名、事務員他 5 名			
【第4回目】合計 40 名 介護職員 25 名、看護職員 3 名、生活相談員 4 名、介護支援専門員 1 名、管理栄養士 1 名、栄養士 1 名、事務員他 5 名			
			第1～4回合計 169 名
【事業所種別】訪問介護・通所介護・短期入所生活介護・認知症対応型共同生活介護・介護老人福祉施設			

研修内容

1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。）

（1）講義・実践研修

◆第1回 7月31日（月）

誰もが、ご本人の力や可能性を尊重する関わりを行えるようになる。

地域各事業所は、資料等提供の上、後日各事業所内で検討評価。評価情報を地域各事業所内で共有、実践。

- | | | |
|-----|-----------------|-------------|
| （1） | 第1部事前講義及び取組課題確認 | 13：00～13：10 |
| （2） | 施設内現場実践 第1部 | 13：10～13：40 |
| | 振り返り・評価講評 | 13：40～14：40 |
| （3） | 第2部事前講義及び取組課題確認 | 14：50～15：00 |
| （4） | 施設内現場実践 第2部 | 15：00～15：30 |
| | 振り返り・評価講評 | 15：30～16：30 |

◆第2回 8月29日（火）

チームとして情報を共有し、正しい連携ができるようになる。ご本人の動きを待つことが絶対ではなく、ご本人の状態により介助を判断できるようになる。

他事業所は前回同様資料送付し検討していただき、評価表及び意見交換を依頼。

- | | | |
|-----|-----------------|-------------|
| （1） | 第1部事前講義及び取組課題確認 | 13：00～13：10 |
| （2） | 施設内現場実践 第1部 | 13：10～13：40 |
| | 振り返り・評価講評 | 13：40～14：40 |
| （3） | 第2部事前講義及び取組課題確認 | 14：50～15：00 |
| （4） | 施設内現場実践 第2部 | 15：00～15：30 |
| | 振り返り・評価講評 | 15：30～16：30 |

◆第3回 10月24日（火）

『お互いが歩み寄り介護実践』利用者に向き合い、言葉を聞いてみる、聞こうとする姿勢を身に着ける。他事業所は参加可能な施設は、研修内で評価及び意見交換。その他は教本及び資料等送付し検討していただき、評価表及び意見交換を依頼。

- | | | |
|-----|-----------------|-------------|
| （1） | 第1部事前講義及び取組課題確認 | 13：00～13：10 |
| （2） | 施設内現場実践 第1部 | 13：10～13：40 |
| | 振り返り・評価講評 | 13：40～14：40 |
| （3） | 第2部事前講義及び取組課題確認 | 14：50～15：00 |
| （4） | 施設内現場実践 第2部 | 15：00～15：30 |
| | 振り返り・評価講評 | 15：30～16：30 |

◆第4回 1月31日（水）

困難な介助事例でも、チームとして取り組み実践を繰り返すことにより、苦手意識を解消していく。

他事業所は、研修内で評価及び意見交換。その他は資料送付し検討していただき、評価表及び意見交換を依頼。

- | | | |
|-----|-----------------|-------------|
| （1） | 第1部事前講義及び取組課題確認 | 13：00～13：10 |
| （2） | 施設内現場実践 第1部 | 13：10～13：40 |
| | 振り返り・評価講評 | 13：40～14：40 |
| （3） | 第2部事前講義及び取組課題確認 | 14：50～15：00 |
| （4） | 施設内現場実践 第2部 | 15：00～15：30 |
| | 振り返り・評価講評 | 15：30～16：30 |

課題検討会～講師メール指導

現場実践施設において、実践後の振り返り及び次回現場実践の内容を検討し整理した。

8月10日（木） 18：30～19：50 第1回実践研修評価・次回の確認

9月8日	(金)	18:30~19:20	第2回実践研修評価・次回の確認
10月16日	(月)	18:00~19:30	第3回実践研修にむけた事例検討
11月7日	(火)	18:30~19:25	第3回実践研修評価・次回の確認
12月12日	(火)	18:30~19:25	第4回実践研修にむけた事例検討
1月31日	(水)	18:30~19:30	第4回実践研修・研修全体総括評価

2 講師・指導者の所属職氏名

日本医療大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻
教授 大堀 具 視 氏

3 研修実施に係る報告内容

研修実施の背景、課題
<p>ご利用者へより良いサービスを提供するためには、チームメンバーの「質の良いつながり」が大切である。これまでの研修においては、個々人の技術の向上に加えコミュニケーション力の醸成等、参加者全員が利用者主体のケアを習得できるように取り組んできた。</p> <p>利用者本人を尊重する介護技術は、日々のケアに定着した。しかしケアスタッフは、ケアに対する取り組みや思いを仲間うまく伝えきれず、実践を一步進んだものとして確立できなかった。</p> <p>質の高いサービス提供には、互いを高め合うチームとしての成長が必要で、現場実践において仲間と何でも話し合い、ケアの技術を研鑽していくプロセスが大切と思われた。</p>
研修のテーマ及びねらい
<p>「人」が「人」を支援する介護において、支援する側のモチベーションやパフォーマンスはケアに直結するものである。</p> <p>「人」を認め「人」を受容し、「質の高いサービス」を生み出すためには、サービスの提供側である全ての「人」が、自分らしく自律性を持って、楽しくポジティブに働けることが大切である。</p> <p>これらを実現していくために、多様な実践事例に挑戦し、仲間がともに成長しチームパフォーマンスを向上させていくことをねらいとした。</p>
研修成果等
<p>1 実施前の課題解決の有無等</p> <p>日常の関わりでは、特別な変化がなければ同じようなことを繰り返し、ケアの視野狭窄という状況に陥りやすく、これまでの学びを継続できなくなる恐れがあった。今回の実践研修では、これまでの思い込みをなくし新鮮な感覚で利用者に向き合うことで、新たな気づきを構築できるようになった。</p> <p>加えて、実践者の中でこれまで自分のケアに自信が持てなかった者は、チームとしての積み重ねを続けることにより、利用者そして仲間を信頼・尊重することの大切さを知り、サポートする参加職員とともに成長が見られた。</p>
<p>2 実施による成果及び効果</p> <p>いつも通りという思い込みを無くし、改めて利用者に向き合う姿勢が、潜在能力や可能性の発見につながった。実践の経過では、利用者の動きを認め、仲間を認め、情報共有とともに成長することで利用者本位を基本とするケアの質向上につながった。</p> <p>ケアに直結する支援者のモチベーションやパフォーマンスは、実践やそのプロセスを通じてケアが成熟する。研修に参加する誰もがご利用者へ一步進んだケアを意識出来るようになったと思われる。</p>
<p>3 今後の課題</p> <p>日常的に取り組む浸透しチームケアは充実したが、実践者自らがアクションを起こしていくには個人差があり、リーダー等の指導を待つ受け身的な感覚はまだある。</p> <p>ケアが自分事になり、もっと介護力を強いものにしていくために、上手くいった人はどうやってきたのか、自分もそんなふうにやってみたい、皆でやろうと、協力して取り組みを進める環境づくりが大切である。</p>

4 次年度以降、より医療連携を推進するために事業所で考えている取り組み

・これまでの取組から、職場内で気軽に話し合えるケア検討は日常となったが、利用者や介護者の状況などは常に変化している。成長を続けていくためには、気づきを深めもう一步考える力をつけ、関係づくりを進めていく必要がある。

・先入観を持たずその人らしさを尊重し、利用者のありのままを見ることができるよう、実践を通しチームとしてかわり、良質なケアにつなげていく。

・意見表出が難しい職員の実践等については、仲間としてお互いが歩み寄り、支えるチームメンバーのかかわり方を変化充実させていく。実践を通し、利用者そして介護者同士が相手を理解し認めていく。

5 研修を企画するに当たって苦労していること、工夫していること

実践研修の際参加者は、実践者もしくはサポート役になり、日常の実践や研修で他の方々に伝えていく役割を持つが、動き出しの介護技術について言葉で伝えることの難しさを感じている。

毎日のケアの積み重ねが実践研修に反映されるが、できることが分かっているのにできないスタッフ、できることを継続できないスタッフがいて、まだまだ情報が共有しきれていないと思い悩むことがある。

動き出し介護技術は、利用者との日々の生活の関わりであり、日常的に続いていくものである。意識的に粘り強く進めていくことが大切であるため、サポート役スタッフの心が折れないように検討委員会などで話し合うようにしている。

6 研修実施に係るまとめ、感想等

これまで複数年、当該事業を継続実施し、ご利用者本位、その人らしさを尊重していく介護が、形骸的なものではなく当たり前のこととして浸透しているのは研修の効果と思われる。

高齢者の運動機能の向上のためのケアを学んでいるが、本人本位の介護技術は、コミュニケーションの醸成による認知症予防や、新人育成を含めたチームケアによる職場づくりにもつながり、ケア全般に影響を受けていることから、現場研修の継続は重要と考える。

ただ、人材不足で業務中には町内他介護事業者が時間内の対面参加が難しく、地域全体でのケア向上を目指していくには、各事業所内での研修方法について検討する必要があると考える。

介護関係職員医療連携支援事業実施報告書

1 基本事項

代表法人名	株式会社 至誠
事業所名	訪問介護ステーションまごころ館
事業所の所在地	〒078-8251 旭川市東旭川北1条6丁目6-53
サービス種類	訪問介護
事業所番号	0172904047

2 研修内容

※複数回開催した場合は適宜、表又は行を追加してください。

研修テーマ（実施要綱（ア）～（ク）から選択。その他の場合は具体的な内容を記載。）
（ウ）認知症の理解
（オ）高齢者の感染症の予防、発生時の対応方法
開催日時
令和6年2月21日
開催場所
サービス付き高齢者向け住宅まごころ館
参加者の人数、職種及び参加事業所種別
訪問介護ステーションまごころ館 19名（全体の人数31名） （介護福祉士6名、看護師1名、介護員6名、厨房4名、庶務1名、総務1名） PTOT デイサービス結かぐら 3名（作業療法士1名、理学療法士1名、介護員1名）
研修内容
1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。） （1）講義Ⅰ「感染症とは」 （2）講義Ⅱ「感染症予防対策について」 （3）講義Ⅲ「感染者が出た時の対応」 （4）講義Ⅳ「認知症とは」 （5）講義Ⅴ「認知症の方への対応について」 （6）講義Ⅵ「事例検証」 2 講師・指導者の所属職氏名 社会医療法人元生会 森山病院 青島 優

3 研修実施に係る報告内容

研修実施の背景、課題
昨年度、有料老人ホームでコロナが集団発生した感染症マニュアルは作成したものの、異動や退職により訪問介護職員の入れ替わりがあったため、施設における感染症対策の理解と対策を図る必要がある。また、利用者の殆どが認知症の方であるが、対応にばらつきが有る為、認知症の最

新知識の習得と共通の理解を深め、対応にばらつきが無いようにする必要がある。

研修のテーマ及びねらい

職員が感染症について正しい知識を学び、感染症が発生した場合の適切な処理方法を実践し、二次感染予防を図る。

認知症の方の介護の難しさの理解をさらに深めより良い介護に繋げたい。

研修成果等

1 実施前の課題解決の有無等

感染症が発生した場合の適切な処理方法を実践し、二次感染予防を図るという目的は果たすことができた。

2 実施による成果及び効果

感染症や認知症に関する知識を職員が得ることができたため、感染予防に必要な手技や認知症介護に必要な対応方法を活用することができている。

3 今後の課題

認知症の方の介護の難しさ、最新知識の習得と共通の理解を深めさらにより良い介護に繋げていきたい。

4 次年度以降、より医療連携を推進するために事業所で考えている取り組み

- ・研修を受けることができなかった職員に対し、情報の共有と連携の強化。
- ・引き続き、訪問介護職員の研修を通じて、連携に必要なスキルや知識を向上させる。

5 研修を企画するに当たって苦労していること、工夫していること

- (苦労) ・計画時の講師スケジュールが合わず講師が変更になった。
・職員不足の為講義の時間の確保、日程の確定が出来なかった。
- (工夫) ・なるべく多く人数が研修に参加できるように勤務を調整。

6 研修実施に係るまとめ、感想等

感染症、認知症の研修を実施することにより、職員全体として必要な知識、理解を得ることができた。